

夢の実現に向けて



さくやま まさき
柵山 正樹

三菱電機(株)／元電気学会会長

歳をとったせいか、昔のことを思い出すことがある。

1950年代の後半に、我が家に白黒テレビが来た。テレビ番組では大相撲や月光仮面などを楽しみにしていた。当時の月光仮面は、私達のヒーローであったが、バイクは砂煙をあげながら砂利道を走っていたように記憶している。

1960年代に入ると、我が家に電話がついた。我が家の地域がダイヤル直通サービスになり、電話が急速に普及した頃であった。また、1963年に我が国初の高速自動車国道となる名神高速道路が尼崎から栗東まで開通し、砂利道から高速道路の時代になった。父の車に同乗したが、当時の自動車は時速100kmで走ると振動がすごかった。翌年には、東海道新幹線が運転を開始し、続いて東京オリンピックが開催された。

1970年代半ばに、大学の研究室にミニコンピューターが導入された。ソースもオブジェクトもデータも紙テープであった。当時は、大学の大型計算機センターへ、カードリーダーに読ませるパンチカードの箱を、ひっくり返さないように大事に抱えて通っていた。紙が記憶媒体の主流であった。

その後、現在に至るまでに技術は大きな進歩を遂げ、子供の頃に見た夢が次々と実現した。テレビはカラーになり、デジタル化され、4K/8Kの放送も始まるうとしている。電話は携帯する時代になった。ミニコンピューターは、その後8ビットのパソコンを経て、現在ではスマホとして電話と融合するに至っている。

これらの技術進歩は、夢の実現に向けて、先輩世代が取り組まれ、私達の世代が引き継ぎながら、挑戦してきた成果であるといえよう。

技術開発の結果、生活や仕事の利便性が向上し、個人レベルでの生活の質の向上や、社会の経済発展やグローバル化など、私達が子供の頃には想像もできなかったほどの変革が進んだ。しかし、環境問題や資源の多消費などの問題を引き起こしたという側面もある。

これから目指すべき変革のキーワードは、「持続可能性」であろう。

今日の社会は、高齢化問題、環境問題、資源エネルギー問題など多くの課題を抱えている。生活や仕事の利便性だけではなく、持続可能性という観点も併せ持つて、高齢化社会における生活の質、気象や水や大気などの環境問題、資源や埋蔵エネルギーの枯渇対策など、さまざまな課題に取り組む必要がある。

持続可能な社会の実現に向けた技術の進歩は、現在においても急速に進んでいる。電気関係の領域でも、自動車の自動運転や電動化は数年前に予測していたよりも速いペースで進んでおり、IoTや人工知能(AI)を活用したSociety5.0といった取り組みも盛んである。

技術の進歩に終着点はなく、これからも新しいテーマが次々と出現し、次の世代へバトンを渡していくことになる。

持続可能な社会の実現に向けて、社会には解決すべき課題が山積であり、電気学会には変革を支えるような技術の研究と開発を牽引していく使命がある。さらには、学会として後継者の育成も進める必要がある。

数年前に、大学における理工系離れという問題が指摘されたことがある。学生にとって理工系の将来の夢が見えないために、理工系に魅力を感じなかったのではないだろうか。

社会を変革するような技術の進歩の原動力は、夢の実現に向けた挑戦である。後継者を育成するためには、まず後継者となる若者に夢を持たせる必要がある。次に、夢を見ているだけでなく、夢の実現に向けて挑戦する姿勢も必要である。

持続可能な社会の実現に向けて、若者が夢を持ち、夢の実現に向けて挑戦するように、電気学会として将来の夢を発信するとともに、夢の実現に向けて挑戦してきた過去の歴史と、これからも挑戦を続ける姿勢をアピールしていきたい。